

物忘れあれこれ

2000年6月20日

歳をとると物忘れに悩まされる。

話の途中で「ほら、あれあれ」と出てこない言葉を探す頻度が増える。

考え事をしていて「うん、我ながら良いアイデアだ！」と思ったところに電話がかかり、終ってみるときれいさっぱり忘れていて。パーティなどであいさつをして立ち話を始めた人の名前が思い出せず、覚られないように名札を見たり、何とか理由をつけて名刺をもらったりする。もっとも忘れることが全て悪いわけではない。忘れられる、あるいは思いを振り切れるからこそ難局を乗り切れることも事実である。時に自分にとって都合の悪い事は積極的に忘れてしまうタイプの人もいて閉口するが。

忘れた言葉を頭の中で懸命に探していると、全く思い出せない状態からもう少しで思い出せそうな状態へ移行し、そしていきなり言葉が浮かんでくる。その過程はいかにも頭の中で脳が回路の接続を必死に切り替えて試している様子を想像させる。逆に言えば自分の回路の劣化をまざまざと感じる瞬間である。神経生理学の分野では、脳内で記憶に関わっている物質がある程度同定されているようである。脳の活動は神経細胞間の信号の受け渡しが基本である。この機能は神経伝達物質の移動で実現され、その受け渡しのためには伝達物質の受容体やその運び手となる蛋白質が存在するとの事である。最近の研究によれば受容体の運び手となる蛋白質の移動速度は1時間に4mm程であると判明したとの事である。ひどく遅い気もするが神経細胞の大きさを考えれば納得出来るような気がする。発毛剤とか精力回復剤とか、昔は考えられなかった薬品が出来る最近である。こういった研究が進めば記憶の低下も原因が判明し、やがて飲めば記憶力が回復する薬が販売されるようになるだろう。薬と言えば胃薬の様に毎食後に飲む指定の場合でもこれを良く忘れる。記憶力の回復剤ができて効果が出るまではしばしば飲むのを忘れるだろうなと考えると話がややっこしい。

漢字の書き方を忘れてしまった原因の一つがワープロの使用であることは間違いない。“読めるが書けない”漢字がどんどん増えて行く。短い原稿などはこまめに手で書けば良いのだが、推敲の過程、整理の便利さを考えるとワープロでつくってしまう。折衷案はワープロに手で入力する事である。手書き入力機能のある電子手帳を使ってみると認識率、速度ともになかなかのものである。書き順までは厳密にチェックしないようであるが、一字一字丁寧に書いて入力すると記憶のリフレッシュ効果がある。パソコンでのワープロ用にスマートな手書き入力端末があれば良いと思うこの頃である。ついでにワープロソフトに筆跡登録機能がつき、使い込んで行くうちに自分の筆跡で印刷出来る様になればこれもありがたい。便利さを追求する中にも、使用する人間が好みの味付けをすることができる道具立てを歓迎したい。